Unified Contact Center Enterprise(UCCE)ロガーが大きなテーブルを消去しない

内容

概要

前提条件

要件

使用するコンポーネント

問題

解決方法

概要

このドキュメントでは、Unified Contact Center Enterprise(UCCE)のロガーのデータを消去しない大きなテーブルの問題を修正する手順について説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- UCCE
- 構造化照会言語(SQL)
- ICMDBAツール

使用するコンポーネント

このドキュメントの内容は、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期(デフォルト)設定の状態から起動しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

問題

ロガーBは、容量が80 %を超えるとデータを消去します。レジストリは、14日間しか保存する必要がないが、それ以上のデータを保存することを示しています。

この問題は、レジストリが14日間設定されているにもかかわらず、保持される日数が多い大きなテーブル(エージェントイベント詳細、コールタイプSG間隔、RCD、RCV、TCD)が原因で発生します。

これは、icmdbaチェックの[Space Used Summary...]から確認できます。.

これは、大きなテーブルを消去するために使用されたストアドプロシージャに競合がある場合に 発生します。この場合、プロシージャは誤ったロガー(ロガーBではなくロガーA)でデータベー スを使用するように指示します。

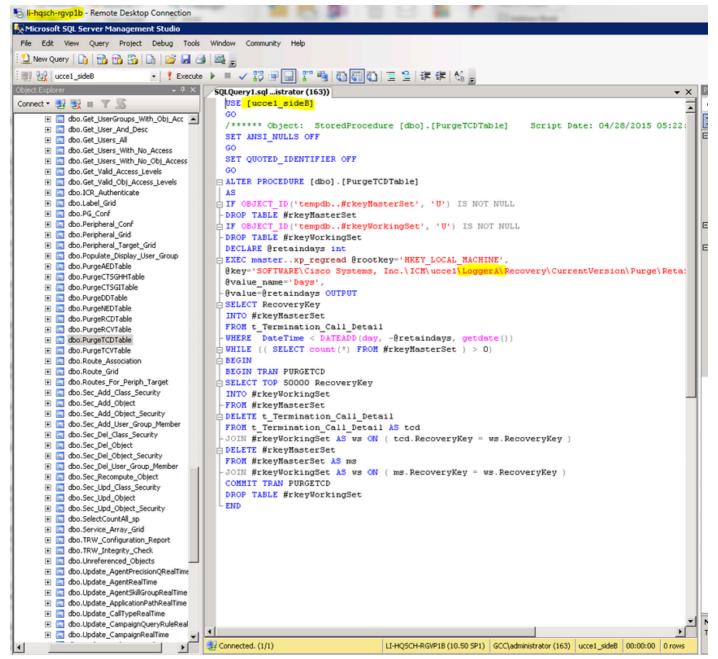
解決方法

ステップ1:レジストリの影響を受けるテーブルの保持期間を変更し、最も古い10 ~ 20日だけが消去されるようにします(1回のデータの消去が過剰にならないようにす)。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Cisco Systems,Inc.\ICM\Customer_Instance\ LoggerX\Recovery\CurrentVersion\Purge\Retain\...

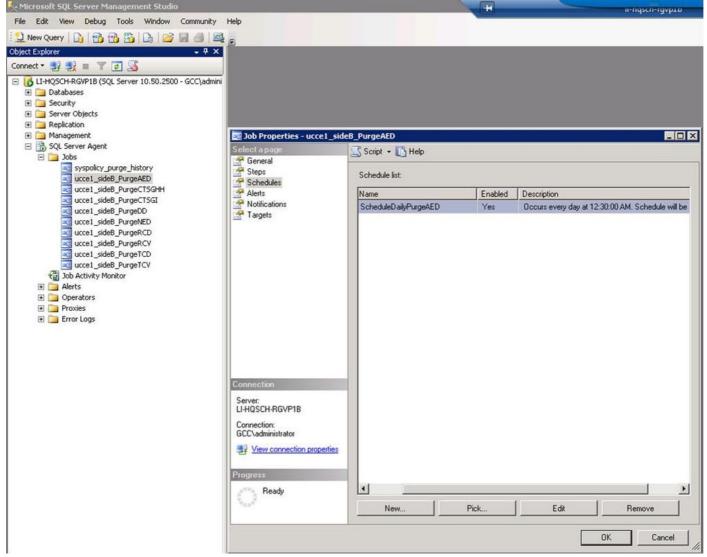
ステップ2:SQL Management Studio、[**Databases**] > <instancename>_sideB > [**Programmability**] > [**Stored Procedures**]に移動し、該当するDBテーブル(エージェントイベント詳細、コールタイプSG間隔、RCD、RCV、およびTCD)ごとに

ステップ3:図に示すように、@key='SOFTWARE\Cisco Systemsで始まる行を変更します (LoggerAはLoggerBに変更する必要があります)。



ステップ4:[Query]メニューのストアドプロシージャの変更を保存するには、[**Execute**]をク**リック** し**ます**。

ステップ5:その後、大規模なテーブルのスケジュールされたパージが夜間(12:30AM)に発生するのを待つか、パージ・ジョブをスケジュールし直して、より早く実行できます。パージジョブを再スケジュールするには、[SQL Server **Agent] > [Jobs]から影響を受けるテーブルを消去するジョブを選択**し、ジョブをダブルクリックして新しいウィンドウを開き、[Schedules]、[**Edit**]をクリッククリックして図にに示します。



ステップ6:影響を受ける各表の最初の最も古い14日をパージした後で、ステップ1に従って最も 古い日を消去する期間を変更し、ステップ5で古いデータを消去します。